



写真01Ligia Katze: 今日のゲストとCoffee and Radio Listenチーム、Martin Butera
写真家のリジア・カツツェ(マーティンの妻)

次の「コーヒーとラジオを聞く」のインタビューは、象徴的なコーヒーショップで行われました。これは、ブラジルのサンパウロにある「プラカダリバブリカ」のスターバックスに他なりません。

アメリカのシアトルで生まれたコーヒーショップのチェーンは私のお気に入りのバーの1つであり、その品質の高いコーヒーだけでなく、彼らが「第3の場所」と呼ぶ場所、つまりお客様はおいしいコーヒーを楽しんで休むことができます。

いくつかの興味深い事実は、スターバックスが2006年にブラジルに到着したということです。

最初のコーヒーショップはサンパウロのモルンビショップングセンターにある店でした。当初、スターバックスはミナスジェライス、サンパウロ、バイア地域からの最高のコーヒーの全国ブレンドを発売する必要がありました。これはここブラジルでのみ販売されていました。おいしいコーヒーを飲むスペシャリストであるブラジル人の味覚を魅了するためでした。そのブレンドまたはブレンドのコーヒーは、今日まで販売され続けています。

スターバックスは国内に122店舗を展開しており、そのうち54店舗がサンパウロにあります。

友人とコーヒーを飲むことは、世界で最も優れた治療法の1つであることが科学的に証明されています。それに、ラジオでの講演を追加すると想像してみてください。

面倒なことはせずに、この「コーヒーとラジオを聞く」のインタビュー対象者を知りましょう。

Coffee and Radio Listen 今日、DenisZogbiとのインタビューをお届けします



写真02Ligia Katze:確認とQslを見てDenisZobquiとMartinButera

ここでは、ポルトガル語で約30分間のインタビューを聞くことができます。その後、翻訳と翻案を残します(これは英語へのテキスト翻訳ではなく、インタビュー対象者のアイデアがここで尊重されていることは明らかです)。



https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-15T21_05_48-08_00

サンパウロの首都で生まれたDenisZoqbilは、ブラジルで最も影響力のあるDxsistsの一人であり、会社を設立したおかげで、非常に優れた受信性能を備えた非常に経済的なループアンテナを開発したことでブラジルとラテンアメリカのDxsismで知られるようになりました。Stars Telecomと呼ばれる会社は、ブラジルに20年以上存在し、すでにブラジルの内外で数千のアンテナを販売しています。

Denis Zoqbilは天文学の愛好家であり、CASP(Clube deAstronomiadeSãoPaulo)でさまざまなコースを教えることで天文学に関心のある人々を訓練しています。また、IAG USP(Institute of Astronomy, Geophysics and Atmospheric Sciences)でも協力しています。天文学、地球物理学、大気科学研究所は主要なセンターの1つです

ブラジルの正確な地球科学の分野の研究チームで、120年以上の活動があります。

デニス・ゾクビは、マルコス・ポンテスの同僚であり友人であり、最初のブラジル人宇宙飛行士であり、現在はブラジルの科学技術大臣であるアマチュア無線ブラジレロ(PY0AEB)です。



写真03個人アーカイブ: デニス・ゾクビ、マルコス・ポンテス、アマチュア無線ブラジレロ(PY0AEB)、最初のブラジルの宇宙飛行士、現在はブラジルの科学技術大臣、彼らが天文学と技術について共有した多くの会議の1つで

ラジオでの彼の神父母(彼をラジオの世界に連れて行った人々)は、1965年にブラジル宇宙計画の最初のステップを開始したブラジルチームのメンバーであり、サンパウロで亡くなったバシリオバラノフ大尉に他なりません。、2008年。そしてアマチュアラジオ、ジュニアトレスデカストロ(PY2BJO)は、これまでに最初の個人であり、DOVE-OSCAR17と呼ばれる独自の衛星を打ち上げた唯一の人物として国際的に知られています。発売から30年で完成し、ブラジルで初めてラジオアマチュアに捧げられました。トレス氏は、2018年にサンパウロでもすでに亡くなっています。

Denis Zoqbilは、AEB(ブラジル宇宙機関)を含むさまざまな公的機関および民間機関の講師として積極的に参加しています。彼はまたそれを行います

Campus Party Brasilの初版(Campus Party Brasilは、革新、創造性、科学、起業家精神の祭典を中心に行われる世界最大の技術体験であるCampus Partyのブラジル版です)。



写真04個人アーカイブ:キャンパスパーティーブラジルで講演を行うDenis Zobqi (2015)



写真05個人アーカイブ:AEB(ブラジル宇宙機関)のDenis Zoqbi

彼は、サンパウロのイビラプエラ公園にあるプラネタリウムである、イビラプエラプラネタリウムとしても知られるアリストテレスオルシーニプラネタリウム教授の訪問と協力しています。 1957年1月に発足し、ブラジルとラテンアメリカで最初のプラネタリウムでした。

また、ミナスジェライス州のブラゾポリスとピラングスの自治体の間にあるピコドスディアス天文台でも行われています。この天文台は、国立天体物理学研究所によって運営および保守されています。標高1,864mに位置し、ブラジル大陸で最大の天文台の1つです。



写真06個人アーカイブ: Observatorio Pico dos DiasのDenis Zobji



写真07個人アーカイブ: ピコドスディアス天文台で天文学の学生と一緒にいるデニスゾブキ

昨年、彼の会社であるStars Telecomは、いくつかの協力者と協力して、点字に刻印されたチューニングボタンとコネクタを採用した、視覚障害者が使用できる一連の中波ループアンテナを設計および組み立てました。これらのアンテナには、VoxNVDAファイルの中波でデキシズムを練習する方法に関するオリエンテーションマニュアルも付属しています。



写真08個人アーカイブ:アンテナ工場で幸せなデニス・ゾクビ



写真09個人アーカイブ:ブラインドDxsist、MárcioCoelho、サントアンドレ、サンパウロ、ブラジルの居住者、StarsTelecomによって作成された適応ループDZアンテナを使用します。

MB: デニス、ラジオへの最初のアプローチはどうでしたか、当時から何を覚えていますか、どのようにしてラジオを聴き始めましたか？

私は約10歳で、1984年の終わりでした。この数年間、私はラジオを聞くのが本当に好きでした。ヨーロッパとレバノン出身の私の家族は、私たちの家に来た親戚が聞いていたので、短波ラジオを持っていました。海外からのラジオ、たまたま家の中で家具を変えてしまったのですが、運命のせいで部屋に短波ラジオが残っていて、そこで何かを聴き始めました。

1996年のことを覚えています。それはメキシコでのサッカーのワールドカップでした。サッカーは好きではありませんでしたが、モスクワの中央ラジオを聴きながら、約3日間部屋に閉じ込められました。

ポルトガル語で放送していて、それが私を魅了し、それが私の人生に望んでいたことだとすぐにわかりました。

その1986年、私の人生を永遠に刻んだ2つのことがあったことを覚えています。1つはハレー彗星がサンパウロを通過するのを見ていたこと、もう1つは短波送信を聞いていたことです。

私はラジオが大好きだったので、AP(AP通信)で働く無線通信士になりました。また、コミュニケーション分野でも開発しました。趣味がとても強かったので、後で職業に影響を与えました。

MB: 短波であなたに最も影響を与えたラジオ局や番組は何でしたか？

Radio Central Moscow、Radio Canada、BBC、Radio Nederlandの時代は確実でしたが、これらの放送局は毎日聞く義務がありました。番組は大きく異なり、今日のジャーナリストとして、いくつかのアプローチをとっていました。同じニュースですが、ほとんど不可能だと思います。

当時、私はラジオモスクワのようなソビエト州の共産主義ラジオ局を聴き、同じ日に、例えば、中立的なイデオロギーを持った文化ラジオであるラジオカナダインターナショナルを聴き、同じことについて話しました。私はすごかった。

MB: いつDxsismにジャンプしましたか？それともそれは決して起こりませんでしたか？ **Qsl**を変更することだけが重要であると思われるDxsistであることを超えて、ラジオを聞く喜びを失わないことを意味します。

真実は、私は常に技術的な部分が好きでした。私はいつも好きなステーションに忠実なラジオリスナーでした。Dxプレーヤーとして、私が最も難しいと思ったものを聞くのが好きでした。私たちは80年代のDxプレーヤーでした。「ラジオを聞いて、ラジオのブリードも」というフレーズは、できるだけ投げて、たくさんのラジオを聴いて、幸運にも多くのアマチュア無線に会い、技術的な部分、電子機器を見せてくれました。そのおかげで、私は電子機器の勉強を終え、奇妙な無線機を復元しました。そのおかげで、今は通信エリアに住んでいて、宇宙通信エリアでも少し開発しました。私はDxersだからです。

MB: 技術的に言えば、このカフェに持ってきてくれた**Qsls**を楽しんでいます。技術的に最も魅力的なのは、大小を問わず、どのラジオ局ですか。

さて、私は非常に良いリスナーを持っていました、私はそれについて文句を言うことはできません、とにかく私はqslを集める特徴がありません、私は私のためにラジオ局を個人的に聞くだけで幸せですそしてそれはすでに私に届きます、Qslsカードそれはのためです私はそのリスニングを補完するだけで、もちろんそれは素晴らしいと思います。だから私は彼らをあなたと共有したので。私はそのような特別な確認を持っているとは思いません。おそらく重要なのはルクセンブルクのラジオかもしれません。ここサンパウロでは、地域の干渉と、テスト中の2000年代半ばに再び送信されていたため、ここで聞くのが難しい放送局があります。ソビエト連邦のいくつかの国がありますが、ここブラジルでは聞くことが期待されていませんでした。信号は非常に弱かったが、私はそれらを聞くことができるという私の主張は、私にとってすでに非常に大きな個人的な満足である。

短波のラオスのようなアジア諸国からのリスナーもいます。中波でもたくさんのDxsismをやりました。それはいつも私を魅了しました。中波ではヨーロッパ、アメリカ、カナダ、そしてアフリカ、サンパウロと同じくらい大きな都市に住んでいるブラジルのDxsistaにとって、それはすでに非常に個人的な充実感です。私は世界最大の都市の1つに住んでいるので、とにかく周辺地域に住んでいます。それはかなり樹木が茂っているので、とにかく、サンパウロに住んでいてDxをやるのは、すべての人にとってではないので、もっと難しいリスニングをするためのより良い条件があることを認識しています。



写真010パーソナルアーカイブ: サンパウロのラジオルームにいるデニスは、今日、SDRの最新テクノロジーに囲まれています、クラシックレシーバーの素晴らしいコレクションも保持しています。ここでは、Realistic DX 160(別名 Radio Shack DX 160)として、Radio Bandeirantes de Sao Pauloの信号が冬の低伝搬の影響を受けた特定の瞬間に、6090kHzで彼の最高の確認の1つであるRádioTeleLuxemburgをもたらしました。

MB: 大きな無線アンテナを作り始め、より専門的な受信機器を使い始めたのはいつですか？

90年代か91年代に、私はここサンパウロで非常によく知られ、非常に伝統的なモニター研究所で電子工学コースを受講し終わりました。それから私は電気通信を勉強し始め、そこで私はより専門的な機器に興味を持ち始めました。ジュニア・トーレス・デ・カストロ(PY2BJO)やバジリオ・バラノフなどのアマチュア無線の友人であるラジオ・アマチュアは、技術分野に深く関わっていました。

MB: なぜ当時のブラジルのDxsismoはアンテナに興味がなかったと思いますか？

アンテナに興味がないのは、手間がかかり、試作品をたくさん組み立ててから、受信機で長時間テストして、実際に動作するかどうかを確認する必要があるためだと思います。それがデザイナーになって、アンテナが聴きやすくなり、それがますます複雑になりました。アンテナを組み立てるたびに、赤ちゃんにスイーツを与えることだったと思います。以前よりも良かったです。私はとても幸せでした、そしてそれは深刻なDxがより深刻になるたびにとどまり始めた場所でした。

MB: そして、私が知っているループDZはどのようにしてクラシックになったのですか？ここブラジルでは、非常に異なる特性のアンテナを製造している人が2人いると思います。ループアンテナのDenis Zoqbiと、DX Clube doBrasil用に製造されたRGP3フェライトアンテナを備えたRenéPassoldです。コーヒー。

最もよく知られているのは中波ループDz40アンテナです。これは40センチの開口部があり、それはポストボックスと同じ長さであるためです。90年代から、多くの人はそれが理由であるとは知りません...今ご存知のように(笑)、もっと簡単に、もっと安く発送できるようにすることでした。

そのアンテナで、私は中波を聞き始めました。中波ステーションが南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、米国全体に伝播しているとき、私は非常に興奮して、どんどん大きくループし始めました。もっと大きなものが集まって、私はスーパーループから呼び出します、そしてそれは4メートル以上の面積を持っています、現在私はラジオリスニングのために南のコーンで今日使用されている最大の固定ループアンテナを持っていると言うことができます。

90年代の終わりに、私は雑誌の編集局で働いていました。パリのダカール、オートバイレースをカバーする必要がある、ラジオ、正確には送信されたモロッコを聞くことができるように装甲アンテナを組み立てる必要がありました。短波では、私は本当にそれらのラジオを聞くための愛好家のDxプレーヤーとして必要ではありませんでした、私の仕事のためでなければ、私は可能な限り最悪の時間に聞く必要さえありました、それは私が開発した技術分野の友好的な人々とそれでしたプロトタイプモデル、もちろんループアンテナは私の作成ではありません。ループは第二次世界大戦から来ました。私は持ち運び可能で、多くのゲインを持ち、同じアンテナで複数の帯域を持つことができる最終仕上げに到達することができました。同じアンテナで短いすべての波帯のように、熱帯の波を聞くことができます。

その後、装甲ループは1997/98年に登場し、現在も市場に出回っています。



写真011個人アーカイブ: デニス、彼の巨大なアンテナプロジェクトの1つ、ブラジルのサンパウロにある自宅でラジオを聴いてくれました。

MB: すでに販売したアンテナの数を追跡していますか？

4,000本以上、世界中のラジオ販売会社と販売を行っていますが、ヨーロッパだけで、趣味で生まれたアンテナの販売の有無にかかわらず、すでに約1,500本のアンテナを販売していると思います。 同じ趣味を持つ他の人たちがラジオをより良く、低コストで聴けるように手助けできるようになったことを知って、私は大きな満足をもたらし、本当に何かをしたと感じました。趣味



写真012パーソナルアーカイブ:ブラジルのリスナーが使用している、現在もコレクションに残っている、または現在も使用されているループDZアンテナの最初のモデルの1つは、最高品質のカナダ杉材で手作りされました。次のリンクでは、このアンテナの開発に関する完全なレポートがあります

<http://www.sarmento.eng.br/LoopQuadroOM.htm>

MB: インターネットなどの多くのテクノロジーと混ざり合った短波の未来をどのように見えていますか？

私が80年代にラジオを始めたとき、ラジオを聞くことは誰にとっても何の役にも立たない趣味だと言われていましたが、その時は間違った発言だと知っていたので、秋を聞きました。ゴルバチョフの力について、ボリス・エリツィンが最高ソビエトの崩壊を祝うのを聞いたり、アルメニアなどの変容する国々を聞いたりしたので、まず第一に、Dxsistaであることは他の趣味ではないという知識をもたらしたと思います持ってきてください。

ラジオは、他の技術装置と同様に、新しい技術に適応することになりました。今日から始まるDxsistaは、より高品質のアンテナを使用せずに、今日の大きな世界的な問題である電気干渉を減らすことができるプロの無線機器を使用せずに、ラジオを聞くつもりだと考えています。従来の方法での無線は今日Dxを実行できません。現在、SDRを備えた優れたソフトウェアを使用するなど、現在利用可能なすべての新しい技術的要素で更新されれば、無線には未来があります。

電話ネットワーク、衛星、インターネットは失敗しますが、ラジオは失敗しません。

私たちはまだ宇宙システム、データ通信、パケット無線、衛星を介したデータ送信を持っています。そして、セキュリティシステムは最終的にアマチュア無線無線環境になります。無線システムは確実であるため、特定の伝搬時間、各帯域の特定の時間があり、通信システムとしての無線は失敗しません。インターネットが妨害される可能性があるので、ラジオが死ぬことはありません。新しいDxsistaまたは以前の人が新しい利用可能なテクノロジーの使用方法を知っていれば、私たちの趣味ではまだたくさんの趣味があると確信しています。長い間。

私が小さい頃、他の地域から衛星やテレビをキャプチャしようとしている人がすでにいたことを覚えています。今日、私は40〜50歳の範囲にあり、アプリケーションを介して衛星をキャプチャする携帯電話を手に入れています。、それはDxersではありませんが、これらのアプリケーションを介して、さまざまな通信手段にアクセスし、いくつかの障壁を打ち破ります。もちろん、大企業は八重

洲、アイコム、JRCなどの受付機器を製造し続けていますが、携帯電話を使ってSDRに入ることができ、何かをすることもできます。

MB:それで、あなたが私に言ったことから、趣味は死ぬことはないでしょう、しかしそれはDxsistからの努力も必要としますか？

今日のDxsistaが快適ゾーンから抜け出す必要がある場合、私たちが趣味と呼ぶものが本当に非常にアクティブであることが不可欠です。今日、米国とヨーロッパでは、ラジオを聞く人々が従来の機器と多くの利点を活用しますが、趣味が引き続きアクティブになるように、アンテナを改善し、フィルターを改善し、ノイズキャンセラーを配置することができただけです。

MB:これらのコーヒーインタビューは、一般的にブラジル国外の読者を対象としています。ブラジル人としてどう思いますか、技術的に言えば、そしてもちろん個人的な能力について、彼らはブラジルのDxsistaについてどのように見えますか？

さて、ブラジル人だけでなく、ラテン語のDxsismを見ることができない場合、Dxsistaがアマチュアラジオでない場合、主に機器へのアクセスのために、ヨーロッパ、北米、または日本語とは大きく異なります。彼らは通常それに慣れています。最も一般的な機器でラジオを聞くために。

さて、それがアマテラスラジオの場合、一般的に、私たちが多くの人々であるという人口問題のために、より良いチームとブラジルのDxsismに変わります、私たちはより多くの人々がいるので利点があります。

。これは、アルゼンチンやチリほど人口が多くなく、優れた技術機器を利用できる南米の国々でも発生しますが、古いものの、他のラテン諸国では、さまざまな政治的および経済的問題のために到着すらしていません。

ブラジル人は彼が持っているものを装備として何とか利用していると思います。

今やヨーロッパ人はより多くの機器にアクセスする方法が異なり、小さな国が隣り合っている大陸では、従来の方法で多くのことを聞くことができます。冬は非常に厳しいので、冬は非常に重要だと思います。冬、彼らは家でラジオを聴いています。

これに対抗して、ここラテン諸国のほぼすべてで、私たちはあらゆる種類の独裁政権を持っていたので、それを見つけるためにラジオに目を向ける必要がありました。まさにそのせいで大ブームだったと思います。ラジオを聞くのは70年代と80年代で、情報提供が不可欠でした。幸いなことに、これらの独裁政権はほとんど存在していません。

ブラジル人とラテン系アメリカ人が私たちについて持っている見解は、私たちはかなり単純なDxingを行い、非常に正直ですが、非常に良いレベルであると信じています。

MB:最後に、デニス、何か他のものを追加したい場合に備えて、私はいつもスペースを残しますか？

付け加えておくと、この趣味が好きな人はこの情熱を体験しなければならないと思いますし、世界は変わっていると言う人も多いと思いますが、この変革に参加するために何もしなければ、同意し続けるでしょう。人生は変わり、それはその一部にはなりません

Dxersはまさにこのツールを備えており、ラジオ、全世界を聞く可能性、最もばかげたもの、最もエキゾチックな国を何とか聞くことができます。90年代に目覚めるのが困難だったことを今でも覚えています。たとえばパプアニューギニアを4000キロヘルツほど聞くのは非常に早いですが、それは聞こえないものを聞くという個人的な感覚であり、それは今日のDxsistsに存在しなければならないことの1つです。

人々がラジオを聴きたいのなら繰り返しますが、彼らが快適ゾーンを離れなければ、彼らはほとんど同じことを得ることができません。

今日、大規模な放送局は放送を停止しています。さまざまな問題のために、これらは経済的である、視聴者の興味がないなどの可能性があります。あなたはもはや世界の主要な送信機を持っていませんが、まだ他のラジオがあり、世界は変容しています、ラジオは変貌を遂げています。

ここブラジルでは、20年前に米国で起こったことを経験しています。大きなAM局は、FMで地域的に放送を開始するためにシャットダウンしています。

ここブラジルの多くの人はラジオが死にかけていると信じていますが、それでもブラジルの聴衆は出席しなくなっていると思いますが、一方でこれらの放送局の停電は、以前は不可能だった他のことを聞くことができるという利点があります。これらの大きなステーションが引き起こす干渉。

今年、私は891 Khzのイランの放送局、ラジオGazeta de Sao Pauloを聴きました。それは放送を停止し、890 Khzで動作しました。サンパウロのガゼタの聴衆に大変申し訳ありませんでした、しかし、その結果、私はブラジル人で、別のラジオ局を聴きに行きました。停電が発生すると、ラジオ信号を聴き始めました。遠距離無線通信が困難になるほど、遠距離無線通信が受信できるようになります。最悪の方法なので、Dxerが聞こえないものを聞いてフォーカスを失わない場合は、もう一度繰り返します。Dxsismは何年も続きます。

Robert Veltmeijer



写真012B: Robert Veltmeijer教授、写真撮影
親愛なる友人のフランシスコ・トゥレッリ

ブラジルのDxsitasが地元のラジオリスナーの家長と見なしているRobert Veltmeijer教授の人生と軌跡について読む将来の調査のために、ブラジルのDxersの参考文献とのこれらのコーヒーインタビューを利用します。

Robert Veltmeijerは、1926年に生まれ、農業工学の訓練を受けたオランダ人でした。第二次世界大戦の経済危機から逃れてブラジルに到着した彼は、ブラジルのいくつかの異なる場所を通過した後、間違いなくサンパウロの中心部、正確にはラルゴ・ド・アルーシュの住所、418アパート56に位置していました。

ブラジルのDxsismに関する重要な会議がそこで行われたので、この方向性が鍵となるでしょう。

そのため、これらのコーヒーの会話はロバート氏について尋ねるためにも使用されたため、デニス・ゾブキへのこれらの小さな質問が浮かび上がります。

MB: ブラジルのDxsistsの総主教であるRobert Veltmeijer氏について教えてください。私たちは彼の家にとても近いと思いますか？

彼がここから2ブロック住んでいた場合、彼はここブラジルに定住しました。なぜなら、家族は世界大戦のためにオランダを離れる必要があり、家族は彼に比較的安い国に行くように勧め、彼はブラジルに来て、彼が住むようになったときです。ここでは、彼が話した言語を除いて、彼は職業を持っていなかったもので、彼は英語、フランス語、および他の言語を教え始めました。

私は彼の家によく行きました、彼はとても面白い人でした、彼はひどい気質を持っていました、彼は時計を見てあなたに話しかけました、そして突然彼はあなたを断ち切り、何かを解決するために行かなければならないと自分に言い聞かせました立ち去ってください。(笑)...でも、奥深くはとても親切な人でした、

私は1988年にアパレシーダの街で彼に会いました。ブラジルのdxers会議と呼ばれる会議がありました。それからロバートの家でラジオについて話す会議があったことを覚えています。その会議で彼は話しました。私の家に来てラジオについて話しました。私は冗談だと思った。2日後、彼は私の家に電話で私を呼んで、母に不平を言った。私が行かなかったもので、私は若く、とても若

かった。私は約14歳で、ロバートは半分怒っているようだった。でも母は私が行けると言って、素晴らしい友情が始まりました。

その後、多くのブラジル人のDxersが家に集まり、ラジオについて多くのことを学びました。とにかく、私のラジオのリファレンスは、いわばより技術的で、私が言及したものです。彼らは私の親愛なる友人であるBasilioBaranoffとJuniorTorres deカストロ。



写真013Ligia Katze: デニスとマーティンが楽しいコーヒーチャットを締めくくる

このようにして、南米のシーンで最も影響力のあるブラジルのDxsistsの一人と、この完全で非常に興味深いコーヒートークを終了します。

DenisZoqbiが持ってきた魔法のフォルダーからのQslをいくつか紹介します。



写真014Ligia Katze: デニスがマーティンとQslを共有



 Ondes décimétriques BP 518 - 92542 MONTROUGE		QSL	
TÉLÉDIFFUSION DE FRANCE confirme votre rapport d'écoute et vous remercie			
fréquence (kHz)	11995	GOMEZ ZOGBI DENIS	
bande (m)	25 m	 SAO PAULO SAO PAULO BRASIL	
date	19/09/93		
station	22H00-23H00		
Programme : Radio France Internationale BP 9516 PARIS			

写真015,016: ラジオフランスインターナショナル (RFI) アンテナの有名な写真で、短波送信と他の送信サービスを送信するために、それぞれ500kWの12個の送信機から電力を供給される12個の回転ALLISSアンテナです。



写真017: フレンテラジオカナダのQsl、
デニスをマークしたステーションの1つ

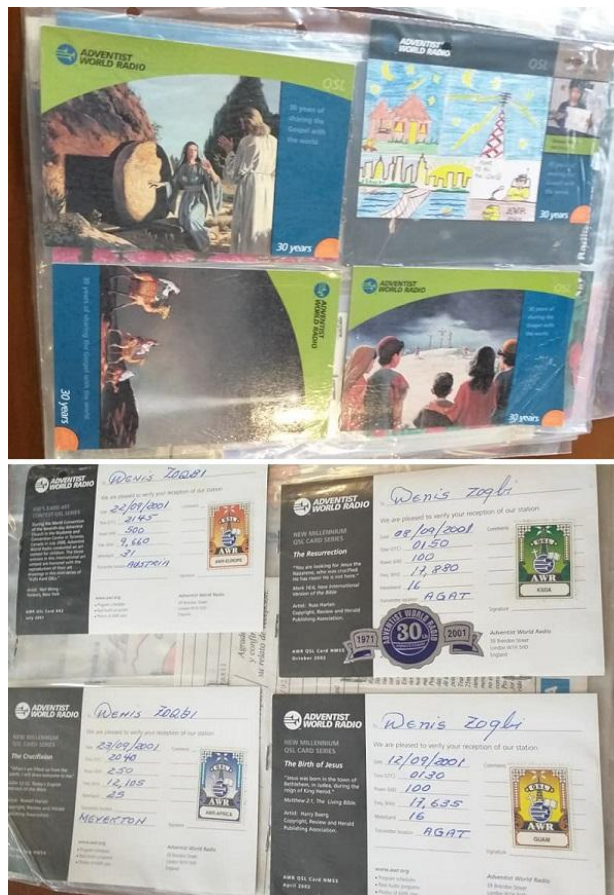


写真018: 素敵な特別アドベントリストワールドラジオ (AWR) コレクション、
短波放送の30年を記念して。



写真019: ブラジルの短波ラジオ局RadioAparecidaSãoPauloのQsl。



写真020: Qslsコレクションシリーズ
ラジオスロバキアインターナショナル



写真021:3つの異なるステーションからのQslのミックス

Deutsche Welle(または英語に翻訳されたGerman Wave) (DW)は、ドイツの国際的な公共放送局です。DWの最初の短波放送は1953年5月3日に行われました。長年にわたり、DWは短波を介して42の言語で番組を放送してきました。近年、短波番組のほとんどを衛星に移しました。

キトのHCJBラジオ、素敵で大きなQSLカード(110 x 235mm)、これはビリー・グラハムが主催したアムステルダム2000会議を記念する特別なQSLカードです。

ポルトガル語のラジオカイロ国際放送サービス。



写真: 022は (VOA) Voice of RussiaのQslとアンテナWSHHのQSIを強調しています (サウスカロライナ州)、4x4回転カーテンアンテナの写真付き。



写真023:ラジオジャパン、ラジオコリアからのQslを見ることができます。
ラジオフランスインターナショナルとDWFドイツ。



写真024: 公式ステーションのいくつかのqslの中で、私たちはの奇妙なQslを見ることができます
南米の海賊局、ブラジルのサンパウロからのラジオP1です。

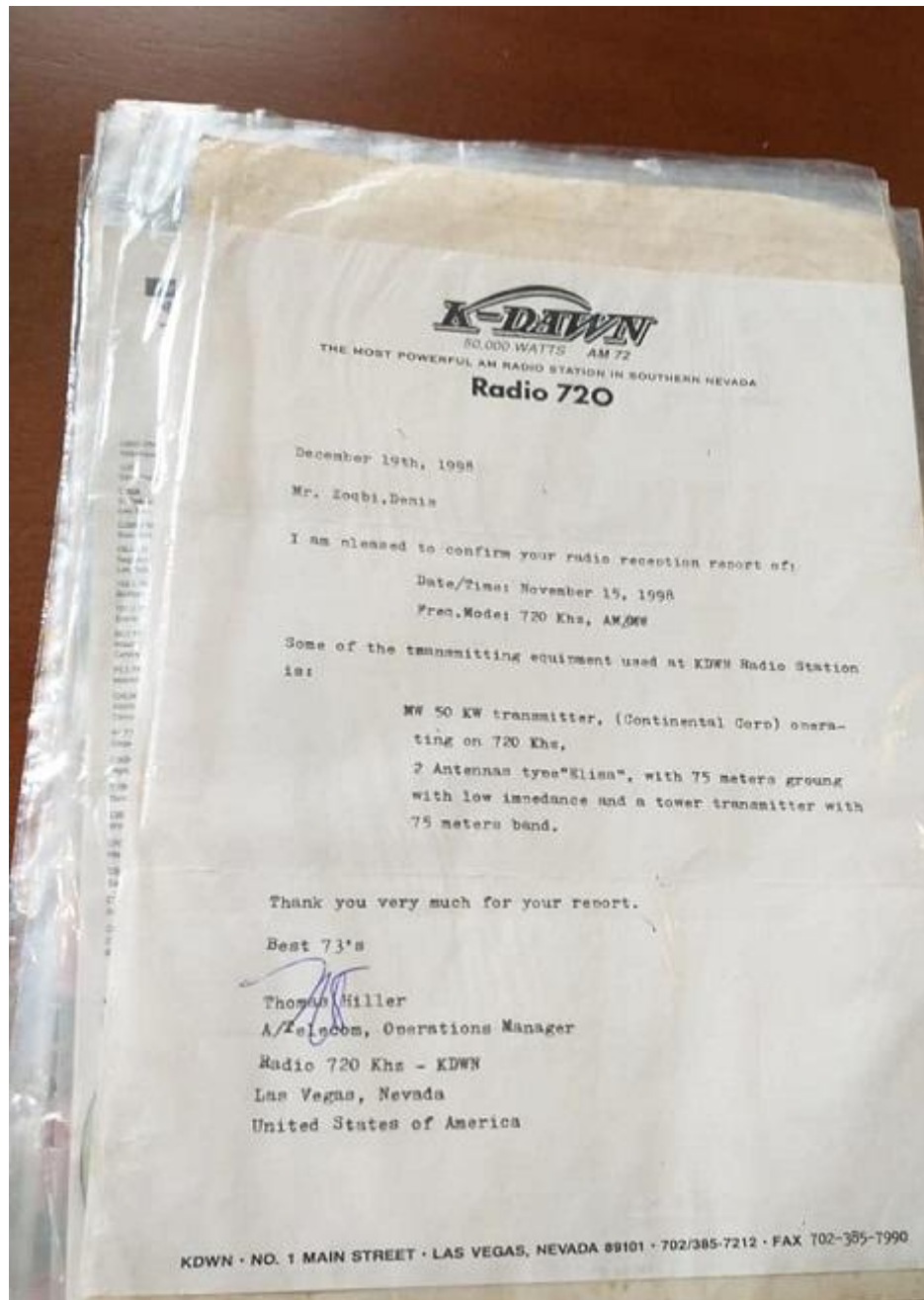


写真025:最後にDWN(720 kHz)の興味深い確認。

DWNは、ネバダ州ラスベガスにある商用AMラジオ局であり、ビーズリーブロードキャストグループインクが所有しています。この局は、識別文字を「K-Dawn」と発音します。ステーションのスタジオは、スプリングバレーの法人化されていないクラーク郡エリアにあり、ヘンダーソンのガレリアドライブにある3タワーの施設から放送されていましたが、1998年11月にデニスゾブキがこれを聞きました。

ブラジルのサンパウロでの局地的な電波干渉が激しいため。



<https://www.abc50s.net/books.html>

次のレポートは、秋葉原BCLクラブの一部でもあるグループでマーティンブテラが編集した本の一部です。

コーヒーとラジオリスンは何ですか？

Coffee and Radio Listenは、大陸の反対側、南アメリカ人、ブラジル人からのラジオリスナーの調査です。

彼らがラジオを聴き始めた方法、彼らに影響を与えたローカルまたは国際的なステーション、ステーションにチューニングするときの興味、彼らが聴きたい言語、リスナーにレポートを送信してQSLを請求する場合、彼らの短波および他の帯域とモードの両方でラジオを聞くことでアンテナとすべての関連する側面を受信します。

最新の著名なブラジル人リスナーへのインタビューは6回あります。

それらのインタビューの1つは、アンテナメーカーのDenis Zobqi氏へのインタビューです。彼は、ループアンテナが好きであることに加えて、天文学に非常に情熱を持っている非常に興味深い人物です。

さらにインタビューに興味のある方は、秋葉原BCLクラブの友達のリンクを入力して、マーティンの完全な本をダウンロードすることができます

https://www.abc50s.net/download/index.cgi?coffee_and_radio01

マーティンはまたラジオで別の編集された本を持っています

https://www.abc50s.net/download/index.cgi?bcl_brazil01

どちらの本も無料でダウンロードできます

Martin Buteraは、ブラジリアDF(ブラジルの首都)のMLA-48の国際メンバーです。